

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 6月 6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500172		
法人名	有限会社 ドリーム・アンド・ライフ		
事業所名	グループホーム もやい志和		
所在地	広島県東広島市志和町冠584番地 (電話) 082-433-3837 (直通)		
自己評価作成日	令和5年4月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492500172-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年5月29日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

木を沢山使った温もりのある建物と、ガラス張りの中庭を中心とした明るいフロアー、施設を囲む田園風景等、四季を感じ、穏やかに生活出来る環境です。開設当初は施設で柴犬を飼い、現在は2匹の猫が入居者様をはじめ、職員の癒しになっています。また、コロナ禍によりご家族参加型の行事が出来ない状況が続いていましたが、感染対策をしっかりと取ることで、昨年12月には3年ぶりのご家族とのクリスマス会を開催することが出来ました。施設に入ったことで「自由がきかない」「会いたい時に会えない」等の思いをしない様に、制限は最小限にして、柔軟な対応をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

現在は制限なしで面会可能であるが、コロナ禍でも感染対策を施し玄関でビニールカーテン越しの面会や居室での窓越し面会を実現したり、昨年末には三年振りにクリスマス会を系列事業所と合同で開催し、家族を含め40名の参加を得る等、馴染みの人や場との関係継続を支援している。又、運営推進会議は家族代表・民生委員・地域包括支援センター・市介護保険課職員・知見者等、多様な参加者にて意見交換し、コロナ禍での書面会議の際は事業所運営状況を5段階で評価するアンケートの依頼を行い、サービスの検証も行っている。特に事業所の詳細な事故報告に対する質疑応答により、ケアの具体的・継続的な検証作業を行い、具体的な提案等を通して事故報告0の月が実現する等、会議を活かした取り組みを行っている。更に不参加家族へも議事録を送付している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフコーナーに貼り、職員に周知できるようにしており、理念に沿った行動が伴っていない職員に対しては、日々の中で話し合い、注意、指導している。利用者を大切にすることは家族を大切にすること、家族を大切にすることは、地域を大切にすることだと常に説明している。	開設時に職員と作った理念を事業所に掲示し、ケア実践上の道標としている。入職時に理念の周知を図り、その後は利用者への対応や状態変化等を振り返る中で理念の実現に繋げるよう、管理者は現場や年2回の個別面談を通し、指導助言をして気づきを促す等、人材育成に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所への買い物、散歩、受診などには出掛け、市役所、郵便局に行く際は、入居者様も一緒に同行して頂き、地域に出掛ける機会を設けている。	コロナ禍により様々な活動が自粛となっていたが、散歩で近隣の人と挨拶をしたり、感染に注意して買い物・受診等、日常的な外出支援の他、近所から野菜の差し入れや昨年末には家族を交えたクリスマス会も復活する等、相互交流もある。又、地域の高校からの見学等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設見学に来られたご家族様や介護の相談を受けた際は、デイや小規模多機能、認知症対応のデイなどを利用しながら在宅生活を継続させる方策等を提案している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に一度、運営推進会議を開催。事業報告をはじめ、事故についても報告し、どのような対策をしているか、具体的に説明し、施設の現状について説明している。それにより、利用者の家族や地域の声を聴き、業務の改善に活かすよう取り組んでいる。	会議は隣接系列事業所と合同で定期的に行われ、家族、民生委員、地域包括支援センター・市介護保険課職員、知見者等が参加している。事業所の運営状況、特に事故報告に対する参加者との意見交換により、具体的な状況や原因・対応策を検証し、事後の取るべき対策を公表している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で市の担当者や情報交換をし、施設における取組みなどを理解して頂いている。	地域包括支援センターや市介護保険課職員は定期的に運営推進会議に参加しており、事業所の運営情報を共有している。又、市担当課とは日頃から介護保険制度等に関する相談や報告、行政主催の研修会へのオンライン参加等で協力関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年二回の研修において、身体拘束における弊害等について学び、現在Y字ベルトを使用している入居者においても、しっかりアセスメントやカンファレンスをして、どのようにしたらベルトが外れるのか、拘束時間を軽減するにはどのようにしたらいいのかを検討している。	系列事業所との合同研修会にて職員は「拘束はしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。家族の同意のもと、車いすでのベルト固定やセンサーマットを設置するが、拘束解除に向けて定期的な検討委員会で検証をしている。日中は玄関を施錠せず見守り対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	施設内研修やWEB研修において虐待防止について学び、職員の意識向上に努めた。また普段の業務の中で、乱暴な言葉遣いや介助には、その場で厳重注意し、虐待防止について再度指導する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年間職員研修の中で、権利擁護についての研修を行い、職員の意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用前に重要事項説明書・契約書の説明を行い、疑問や不安に思っていることを説明の中で明らかにし、理解や納得をして頂けるようにしている。キーパーソンが高齢者の場合は、特により具体的に、わかりやすく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご本人とは普段のかかわりを多く持ち、要望を引き出す機会を作っている。意見箱ではご家族や地域の方の意見を伺うことは難しい為、面会時やメール、LINEにて情報交換する中で、要望を伺っている。	利用者の意見は日々の会話の中で把握し、家族とは面会時・運営推進会議・様々な連絡手段で管理者や職員が積極的に聴く様に努めており、申し送りノート等に残し職員間で共有している。家族の提案により、病気で食欲の落ちた利用者には娘さんの手料理を振る舞ったら寿司を食べた例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回の業務会議などでお互いの意見を提案していき、反映できるように検討・実施等を行っている。また毎年2回、5事業所の合同全体会議を実施していたが、コロナ禍の為、各事業所に社長が出向き、社長と管理者にて、事業計画を説明した。	毎月の業務会議、毎日の申し送りや随時又は年2回職員との個別面談等を通し管理者は職員の意見を聞く機会を設け、業務上の提案等に対する支援体制を採っている。職員の提案で業務の空き時間を見直して有効活用したり、意見の表出が苦手な職員にはレポート提出を促す等の工夫もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日頃の勤務態度や実績を人事考課に反映させ、低評価項目においては、指導、教育している。職員の日頃の努力を見逃さず、公平な評価を行い、処遇へ反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間職員研修や外部研修により知識、技術の向上を図っている。コロナ禍になってからはWEB研修を毎月実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修やグループホーム協会の会議等に参加し、お互いの事業所の情報交換やネットワーク構築に努めていたが、コロナの関係もあり実施出来ないで、交流のあるグループホームの管理者と情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学时、入居前に、ご本人との話し合いの機会を設け、要望や必要な支援について話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>本人と同様に、数回に分けてご家族の思いや、入居にあたって要望されることを聞き取っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>グループホームにて生活されるにあたり、アセスメントをしっかり行い、ご本人の支援に有効なケアプランを展開出来るようにする。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ひとり一人の出来る事、やりたい事を見極め、食事の片づけ、買い物等を一緒に行うことにより、一緒に生活しているという意識を持って頂く。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>定期的にご家族に近況報告をし、支援についてのアドバイスを受れたり、ご家族に協力頂き、外出等の機会を設けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご本人が通っていた病院やお店など、出来るだけ継続出来る様に支援している。</p>	<p>コロナ禍でも感染状況に応じ、玄関でビニールカーテン越しの面会や居室での窓越し面会等に対応し、現在は制限なしで面会可能である。又、電話・手紙のやり取りの他、自宅外泊、受診、買い物、外食等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性の良い利用者同士を同じテーブルにしたり、一緒に過ごす機会を多くもてるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所されたご家族の多くと、今でも関係が継続しており、認知症などの相談をはじめ、お互いの情報交換をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、ご本人の本心や思いなどを汲み取り、出来るだけ実現出来る様に支援している。外出や買い物、家族に会いたいなどの要望は叶えるようにしている。	その方の気持ちを大事にゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解するよう努めて申し送りノート等で共有している。歩ける利用者には歩行の機会を考慮した生活作りを立案し、「昔甘い物が好きでしたね」という話に頷いたペースト食の利用者には、おやつに和菓子等を提供した例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントやケアプラン、家族の面会時などを利用し情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態は、細かく業務日誌に記録し、朝夕の申し送りにて職員の伝達する。その日のいない職員に対しては、申し送りノート、LINE等を活用し、全職員が周知出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画はアセスメントやご本人、ご家族からの希望、職員の意見に基づき作成している。サービス内容は出来るだけ細かく、具体的な書き方をし、統一した介助を心掛けている。</p>	<p>立案した介護計画書を申し送りノートに貼り、統一したケアに繋げるべく、サービス内容欄にケアの留意点を補足追記している。全介助状態の利用者にはしっかりと食事を取ってもらい、安易に車いすに頼らず、二人介助で杖でトイレに行く等、潜在力を活かした立案に取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人ファイルに日々の生活を記録し、特記事項等あればさらにケア記録に追加して、詳細に記録している。その中から介護計画、ケアプランに反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>基本的にはケアプランに沿った支援をしているが、状況に応じては介助方法を変更したり、追加するなど、臨機応変に支援をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のスーパーや公民館、神社等に出掛け地域との交流の中でご本人が暮らしを楽しんで頂けるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医院や協力歯科医院はあるが、ご本人やご家族の希望を伺い、かかりつけ医を決めている。毎月1回は定期受診に伺い、必要に応じては専門医の受診や訪問看護の利用に繋げている。</p>	<p>利用開始前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。職員が同行して協力医には毎月1回、協力歯科医・専門医には適宜受診し、利用者の普段の様子を伝えている。看取りの際は訪問診療や訪問看護師の支援もあり、適切な医療が受けられる体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>施設には看護師がいないが、隣接するいきいきデイや小規模多機能ホームの看護師に相談している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には介護サマリーに細かい情報や入院に至るまでの経緯も記載し、お互いの情報交換を密にし、退院時には事前に病院に伺い、今後の介助方法や病状において情報を取り入れている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>状態に少し変化がある場合、早い段階でご家族に報告、相談し、終末期について話し合いを行っている。施設での看取りを希望される方においては、かかりつけ医からの説明をはじめ、随時状態についての報告を行い、家族の意向についても変更が無いかなど、定期的に確認している。</p>	<p>利用者や家族の要望があれば看取りを行う方針である。利用開始時に看取り指針を説明し、終末期についての事前確認書で意向把握を行っている。終末期は関係者で話し合い、職員間で統一したケアを行うべく状況説明書の作成等、指針に沿った支援と共に業務会議で振り返りを行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時の対応として、毎年いろいろなテーマにて研修を行うと共に、実際に緊急時心肺蘇生を経験した経験のある職員から新人職員へ指導している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年に2回消防署と連携し、夜間を想定した訓練等も取り入れ行っている。隣に住む消防団とも契約を交わし、災害時は通報システムで自動に連絡がいき、協力体制を築いている。</p>	<p>年2回消防署と連携し系列事業所との合同避難訓練を行っている。自動通報により系列事業所も含めた最寄りの職員に連絡が繋がる体制となっている。事業所はハザードマップの警戒区域外だが、地域との協力体制については近隣の消防団員と連携し、1次避難誘導への協力体制が出来ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いにおいては厳しく指導している。研修においては、人格・尊厳の尊重について学び、各自が尊厳を大切にしたいケアが出来ているのか振り返っている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。又、例えば食事介助の際もメニューを紹介しながら関わられる様、尊厳に配慮したケアを心掛け、管理者は不適切な対応には根気強く指導を行い、気づく事の重要性や望ましい対応を意識できる職員育成に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の関わりを多く持ち、ご本人の思いや要望をしっかり理解し、認知症が強く、言葉にならない方には、表情や反応から、思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	すべてを思い通りにすることは難しいが、日課や職員の都合を優先するのではなく、常に臨機応変に、柔軟に対応することで、少しでも要望に合わせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な散髪を始め、毎日の更衣や、身だしなみに気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節を感じることが出来るような行事食をはじめ、リクエストに応えた食事やお酒、デザート等、食事が楽しめる様な工夫をしている。また毎月、行事の際と一緒に食事を作ることで、作る楽しみや季節を感じて頂いている。	食事は外部業者からの配食を利用しているが、月に一度は好みを反映した手作り昼食を職員と作っている。利用者の中には配下膳など役割に応じた手伝いを行ったり、家族からの差し入れ野菜等が食卓に上ることもある。又、食が楽しみとなる様、父の日に居酒屋風の食事会をした事もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量に確認し、摂取量が足りない時には、ご本人が好まれるものを提供。ごはん以外にも、パン、プリン、ヨーグルト、麺類等、色んなものを常備し、必要に応じて近所のスーパーに買い出しに出ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを始め、義歯は每晚義歯洗浄剤にて消毒。歯磨き以外でも、口腔内の乾燥が気になる方には、保湿ジェルなども使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	本人の排泄パターンを把握しているので、日中は比較的尿失禁前にトイレ誘導が来ている。またトイレでの一連の流れも、根気強く説明することで、最後までの流れを問題なくスムーズに行える様になっている。	排泄記録表から排泄パターンを把握し、トイレ誘導を基本としている。尊厳やプライバシーに配慮したケアに関わり、夜間は良眠を優先した紙オムツ対応や体調不良者にポータブルトイレの設置、夜間にセンサーマットを設置する等、利用者の状態に応じた排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日のラジオ体操のほか、散歩などの運動のほか、水分をこまめに飲用し、食物繊維の多い野菜を摂り、必要に応じて、緩下剤を服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	週二回午前中の中の入浴と決まっているが、拒否がある時には日にちや時間を変更し、柔軟に対応している。	週2回の午前浴を基本とし利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの湯温や時間等で柔軟に対応している。入浴は半埋め込み式家庭浴槽での個人浴だが、利用者の重度化に伴い天井走行式リフトを活用した介助を行っている。季節も楽しめる様、柚子湯や菖蒲湯で工夫もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動量を増やし、午睡も1時間以内と決めている。就寝前に養命酒を飲まれたり、職員とソファでゆっくり会話する時間を設け、安心して就寝出来る環境を作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方用紙をカルテに保管し、用法、用量について皆が把握できるように努めている。また、変更、追加があった場合は、口頭及び申し送りノート等にも記載し、職員の周知徹底に努めている。服薬管理の担当を定期的に変えることにより、皆が薬に詳しくなり、理解が深まっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々によって楽しみや気分転換の方法が違うので、それぞれに合った方法を職員間で共有し、支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎月1回の定期受診を始め、本人が行きつけだったスーパーに行ったり、郵便局や支所に同行して頂く等、地域に出る機会を設けている。また元気がない日が続く時には、ご家族に相談し、数時間帰省してみたり、ドライブに行ってもらったり、気分転換を図っている。	コロナ禍の収束上に応じ、敷地内でゴミ出し、近隣への散歩・花見・買い物・受診等での外出や道の駅・名園へのドライブや自宅への一時的な帰宅等で「非日常」を楽しめるよう取り組んでいる。利用者は車に乗る事だけでも笑顔が見られ、車が道に迷っても笑い声が起った経緯がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に行く際は、個人の財布にお金を入れ、購入品を自分で支払って頂いたり、数千円でも所持したいというご利用者には、ご家族の了解を得て、手渡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人の希望によっては自ら電話して頂いたり、暑中お見舞いや年賀はがきを毎年送って頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>木の温もりを感じて頂けるような住居、家具を提供し、随所にソファや談話スペースを設置することで、くつろぎの空間を用意している。また、窓や天窓から自然光を取り入れ、明るく、居心地良く過ごして頂けるように配慮している。施設内で飼っている2匹の猫は利用者、職員の癒しになっている。</p>	<p>木の温もりと四季を感じられる様に住環境を工夫したり季節行事の飾り付けも行っている。ガラス張りの中庭や天窓から採光の取れる開放的な空間であり、中庭に面した談話スペースや意図的に死角を設け一人ひとりの居場所作りを工夫している。癒しの猫も二匹飼っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合う利用者同士は同じテーブルになるようにし、またリビングや廊下などのいたるところにソファを置き、好きな所で過ごして頂けるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>部屋への持ち込みは規制無く、出来るだけご本人の使い慣れた物や要望されるものを持参して頂いている。テレビ、小さいタンスをはじめ、仏壇、テーブル等、好きな物設置して頂いている。</p>	<p>居室にはベッド、クローゼット、洗面台が備え付けられ、仏壇等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、利用者によっては夜間排泄時の転倒防止のためポータブルトイレや床センサーマットを設置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自室には名前の書いた表札を置いたり、それでも理解が難しい方には、ドアに名前を貼り、自分の部屋がわかるようにしている。トイレのドアにも同じようにし、職員の誘導が無くても、自分で自室やトイレに行けるようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもやい志和

作成日 令和5年6月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	施設の強みであった地域（ボランティア、行事等）との繋がりがコロナ禍において激減したが、徐々に交流を再開させる必要がある。	ふれあいコンサート等を定期的に開催し、家族、地域と繋がりのある生活を提供する。	・8月の夏祭りの開催 ・10月ふれあいコンサート ・ボランティアの調整 ・その他行事の計画	2か月～12か月
2	35	年2回火災訓練を行っているが、その他地震、停電等の災害における訓練の必要がある。非常時に全員が冷静に行動出来るか不安がある。	様々な災害に対して冷静に判断、対応でき、被害者や犠牲者を出さない体制作りをする。	・BCPを作成し、それを基に自然災害を想定した訓練の実施。	8か月以内
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。